

### Ⅲ 他誌投稿論文抄録

## 1. ELISA法によるヒトパルボウイルス (HPV) B19抗原, 抗体の検出

白石 廣行

臨床とウイルス 21(4), 227-230, 1993

伝染性紅斑(第5病, リンゴ病)の原因ウイルスとして知られているヒトパルボウイルスB19の血清学的診断は, このウイルスの細胞による増殖が難しく, また, 特異抗体が得られていない等の理由で有用な検査法がなく, 診断が出来ない状態であった。そこで我々は抗原陽性血清から精製したウイルスを用いてモノクローナル抗体を作成し, ELISA法によるヒトパルボウイルス抗原, 抗体の検査法を確立した。

## 2. 宮城県におけるワイル病

### —過去30年の疫学について—

秋山 和夫 山本 仁

公衆衛生情報みやぎ 203, 5-9, 1993

過去に記載されたワイル病患者の発生に関するデータや, 近年伝染病流行予測調査事業の一環として, 県独自で実施しているワイル病感染源調査および感受性調査の成績を基に, 宮城県における過去30年間のワイル病の疫学について総括した。その結果, 県内のワイル病は, 患者の血清診断や患者およびネズミから分離したレプトスピラの同定から, *L. copenhageni* が病原体であることが明らかとなった。また, 近年の県内におけるワイル病患者の急速な減少要因は, 予防接種による個人防衛・健康住民の抗体保有状況・ネズミのレプトスピラ保有状況および農作業をめぐる諸要因等の観点から解析した結果, 農作業の機械化が最大の要因であると推察した。

### 3. あなたはツツガムシ病を知っていますか

秋山 和夫

自然倶楽部 3, 27-29, 1994

宮城県内では1993年までに55名のツツガムシ病患者が届け出された。55名の患者がツツガムシ幼虫に吸着された機会は農作業・山林作業・山菜採りなどが主であった。その他に河川敷での釣りや溪流釣りをしているうちに吸着され、感染した場合もあった。そこで、釣り愛好家にツツガムシ病を理解してもらう目的で、県内におけるツツガムシ病の発生状況を述べると共にツツガムシ病の基礎的知識を掲載した。

### 4. 酸性雨のECpによる評価法について

百川 和子 氏家 愛子 加賀谷秀樹  
佐藤 信俊 仁平 明 宮崎栄一郎

全国公害研会誌 18(2), 11-18, 1993

降雨中のイオン成分濃度について主成分分析を行った結果、水素イオン濃度と相関が認められない第1主成分と強い相関を持つ第2主成分とに分離できた。この結果から、水素イオン以外のイオンによる導電率ECp（「汚染導電率」という。）を導入した。ECpはpH計と導電率計を装着する酸性雨自動測定機のデータ解析に有効であり、この新しい指標による評価法について利用例を紹介した。

## IV 学会発表

## 学 会 発 表

○印 発表者

1. Neuroblastoma Mass Screening for 18-month-old Infants in Miyagi Prefecture  
○Shiraishi, H., et al.  
Third International Symposium on Neuroblastoma Screening. Kyoto, Sept. 29-Oct. 1, 1993.
2. GC-MS. SIMIによるカスガマイシンの分析法  
○高槻 圭悟 三浦 正隆  
日本食品衛生学会第66回学術講演会 平成5年9月30日~10月1日 仙台市
3. 大気中の低沸点塩素化合物の測定法について  
○佐藤 博明\*  
(\*現宮城県岩沼保健所)  
第19回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 平成5年10月13日 山形市
4. 宮城県内における酸性雨の地域特性について  
○大倉 靖  
第19回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 平成5年10月13日 山形市
5. 宮城県におけるメタン濃度の変動について(第2報)  
○吉田 德行 加賀谷秀樹 佐藤 信俊  
第19回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 平成5年10月13日 山形市
6. 乾式自動測定器の動向について  
○加賀谷秀樹  
第19回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 平成5年10月13日 山形市
7. 松島湾における巻き上げ底泥が水質に及ぼす影響(第1報)  
○佐々木久雄 高橋 正弘 佐藤 勤 富塚 和衛 濱名 徹 菊地 格  
第19回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 平成5年10月13~14日 山形市
8. ゴルフ場農薬について  
○栗野 健 高橋 正弘 柳 茂 氏家 愛子 小笠原久夫  
第19回北海道・東北ブロック公害研究連絡会議 平成5年10月13~14日 山形市
9. 凝集剤が残存する排水の藻類増殖阻害について  
○佐々木久雄 船木 宏  
第30回日本水処理生物学会 平成5年10月28~30日 高岡市
10. B型肝炎予防ワクチン被接種児の抗体産生と持続  
宮城県B型肝炎母子感染防止協議会HBワクチン予防効果調査研究班  
○白地 良一 伊藤 敏\*<sup>1</sup> 角田 行\*<sup>2</sup> 森塚威次郎\*<sup>3</sup> 多田 和弘\*<sup>4</sup> 武山 恒男\*<sup>5</sup> 関口 博史\*<sup>3</sup>  
中川 洋\*<sup>6</sup> 阿部 修一\*<sup>4</sup> 遠藤 広子\*<sup>7</sup> 貴田岡節子\*<sup>8</sup> 黒羽根郁夫\*<sup>9</sup> 蛇川 大樹\*<sup>10</sup> 今野 多助\*<sup>11</sup>  
(\*1 伊藤産婦人科医院, \*2 仙台市太白保健所, \*3 国立仙台病院, \*4 仙台赤十字病院, \*5 武山産婦人科医院, \*6 仙台市立病院, \*7 東北労災病院, \*8 東北厚生年金病院, \*9 古川市立病院, \*10 東北大学医学部付属病院, \*11 東北大学加齢医学研究所)  
第25回日本小児感染症学会 平成5年11月4~6日 仙台市

11. ウィルソン病マス・スクリーニングについて

○白石 廣行

平成5年度地研北海道・東北・新潟支部微生物研究部会マス・スクリーニング分科会  
平成5年11月25～26日 松島町

12. 神経芽細胞種1歳以降のスクリーニングについて

○佐藤 由紀

平成5年度地研北海道・東北・新潟支部微生物研究部会マス・スクリーニング分科会  
平成5年11月25～26日 松島町

13. 水平透明度による水環境評価の試み

○佐々木久雄 濱名 徹 佐藤 勤 富塚 和衛 小笠原久夫  
第28回日本水環境学会 平成6年3月16～18日 宇都宮市

# C. そ の 他

## I 研究発表会

## 第12回 研究発表会

日時 平成6年2月17日(木) 9:20~15:00  
 場所 宮城県保健環境センター大会議室  
 主催 宮城県保健環境センター

## 研究発表

○印 発表者

座長 荒井 富雄 (微生物部)

9:30~10:30

1. 感染症サーベイランスグラフ表示システムの開発  
 情報管理部 ○三浦 英美 白取 博志 小室 健一 高橋 富基
2. 宮城県における神経芽細胞腫マス・スクリーニング  
 -1歳6か月児検査について- (第2報)  
 微生物部 ○菊地奈穂子 佐藤 由紀 清野 陽子 白石 廣行  
 山本 仁 菅原 直子 (栗原保健所) 加茂えり子  
 (岩沼保健所)
3. A型肝炎の血清疫学 -過去10年間の成績-  
 微生物部 ○島山 敬 秋山 和夫 白石 廣行 山本 仁
4. 宮城県職員におけるトキソプラズマ抗体の分布  
 微生物部 ○葛岡 勝悦 植木 洋 島山 敬 秋山 和夫  
 山本 仁

座長 横山 実 (生活衛生課)

10:30~11:15

5. 食中毒症状による食中毒原因菌の推定法について  
 気仙沼保健所 ○阿部 和男
6. 天然着色料の分析に関する研究 (第1報)  
 -食品中のコチニール色素, ラック色素の分析-  
 理化学部 ○小林 孜 三浦 正隆
7. GC-MS, SIMによるカスガマイシンの分析法  
 理化学部 ○高槻 圭悟 三浦 正隆

座長 大庭 和彦 (環境対策課)

11:15~12:15

8. 浄水処理工程における消毒副生成物について  
 環境衛生部 ○鈴木 康民 氏家 愛子 大金 仁一 高橋紀世子  
 阿部 時男 白地 良一
9. 水平透明度による水環境評価の試み  
 水質部 ○佐々木久雄 濱名 徹 佐藤 勤 富塚 和衛  
 小笠原久夫
10. 蔵王火山活動の環境への影響について (第2報)  
 仙南保健所 ○清野 茂 丸子 勉 安齋 文雄 浦山 清  
 高橋 秀逸 八木 純 高橋 伸行 平井 二郎
11. 中新田町不動清水の水質検査結果について  
 大崎保健所 ○小林 妙子 安藤 京子 三塚 雅子 伏谷 均  
 福地 信一 山岡 晴次 山田 正人



—— 昼 食 ・ 休 憩 ——

12 : 15 ~ 13 : 00

座 長 佐 藤 仁 一 (環境対策課)

13 : 00 ~ 14 : 00

- 12. 人工衛星画像データ表示プログラムの開発  
情報管理部 ○白取 博志 鍵谷 真男 三浦 英美 小室 健一  
高橋 富基
- 13. コンパートメント・モデルによる海産生物中放射性核種の濃度変動に関する解析  
原子力センター ○石川 陽一
- 14. 風速場予測モデル (EXPRESS-1) の予測精度向上に関する検討  
原子力センター ○小川 武 榎野 光永 佐藤 健一 小葉松英行
- 15. 二酸化炭素排出量算定手法の検討  
大 気 部 ○加賀谷秀樹 吉田 徳行 佐藤 信俊 宮崎栄一郎  
鍵谷 真男 宗久 和義 高橋富基 (情報管理部)

座 長 中 村 栄 一 (環境対策課)

14 : 00 ~ 15 : 00

- 16. 酸性雨自動測定結果について (第5報)  
- 洗浄係数率による解析 -  
大 気 部 ○佐藤 信俊 吉田 徳行 加賀谷秀樹 宮崎栄一郎
- 17. 黄砂現象に伴うSPM高濃度事例について  
大 気 部 ○吉田 徳行 加賀谷秀樹 佐藤 信俊 宮崎栄一郎
- 18. 宮城県内における酸性雨の地域特性について (第3報)  
大 気 部 ○大倉 靖 鈴木 壽雄 佐藤 博明 斎藤 善則  
宮崎栄一郎
- 19. 快適環境指数の算出予備調査  
- 空気のさわやかさ, まわりの静けさを中心にした調査 -  
大 気 部 ○高橋 誠幸 加藤 憲治 新垣 康秀 嶋峨 京時  
宮崎栄一郎

## 編集後記

年報の編集作業に取り組んだ平成6年の夏は、東北南部でも梅雨明けの訪れが例年にないほど早く、その後各地で最高気温の記録更新が相次ぎました。また深刻な水不足に見舞われるなど、「戦後最も暑い夏」でした。

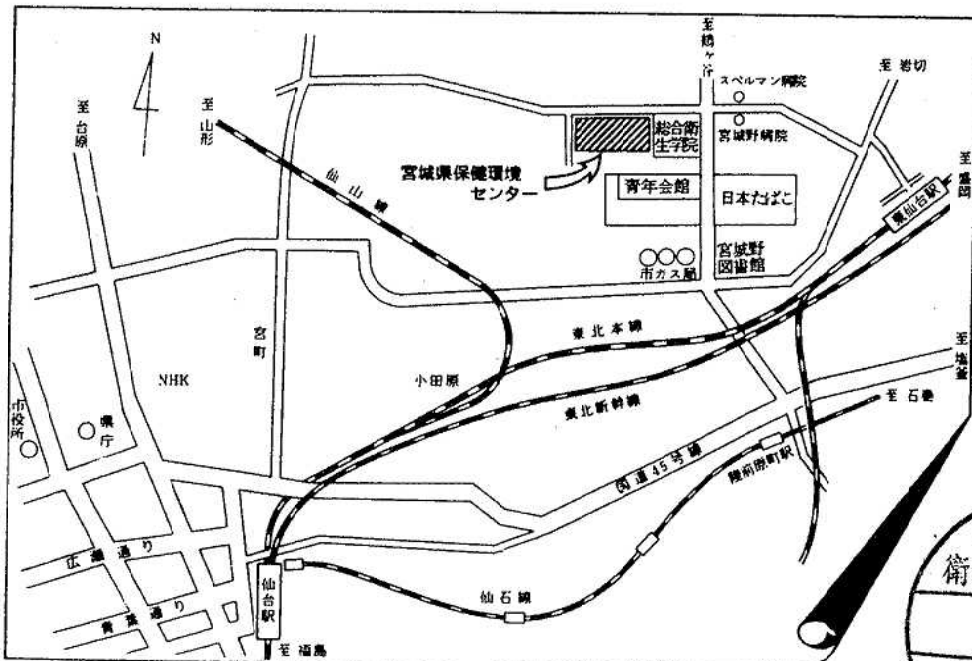
私共は気力を奮い起こしながら、年報がより充実し洗練されたものになるよう努力した積もりですが、読者諸氏の御感想はいかがでしょうか。

平成6年1月21日に大気部の加藤憲治研究員が、また2月12日に理化学部の高槻圭悟研究員が急逝されました。記して哀悼の意を表し御冥福を祈る次第です。

## 編集委員

山本 仁 (委員長)	上村 弘
小室 健一 (副委員長)	大槻 良子
小野 利夫	大金 仁一
大森 勝郎	加賀谷 秀樹
高橋 正人	栗野 健

宮城県保健環境センター



宮城県保健環境センター年報 第12号  
(平成5年度)

---

印刷 平成6年11月

編集発行 宮城県保健環境センター

〒983 仙台市宮城野区幸町四丁目7番2号  
電話 022-257-7181(代)

---